

# Portrait Book



## TMIがつくる人 人がつくるTMI

私たち弁護士は、激動する時代の中で、幅広い法律知識と高い専門性を求められ、その内容やレベルはますます高度化しています。昨日まで弁護士の仕事でなかったことが、数年後には一つの専門分野を構成していることも珍しくありません。しかし、時代を経ても変わらないものがあります。それは「クライアントファースト」の精神であり、「最良」を追い求めるマインドです。弁護士としての高度なスキルを有するのは当たり前のこと。それを越えて私たちが重視するのは、時代やクライアントの求めに合わせて対応していくしなやかさであり、プロフェッショナルとして妥協を許さず、「誰かのために」身を尽くせる人間性なのです。それこそが、TMI が設立以来守り、育み続けてきたものです。

企業法務の仕事は、一人の職人芸で完結することは少なく、先輩や同僚、後輩弁護士とともに案件を推進することが不可欠です。そのためには、一人ひとりがのびのびと持ち味を発揮しつつ、目の前の業務に全力で取り組める環境と、事務所の仲間との強い信頼関係が欠かせません。豊かな人間性と様々な個性を持った人が集まり、それぞれの持ち味を認め、高め合い、個々人が鍛えたスキルと経験を結集して、社会のために、クライアントのために、最大限尽力する存在であり続ける…これこそが TMI が大型総合法律事務所として存在する意義なのです。

新人の皆さんには、組織の規模が大きくなっても、一人ひとりがのびのびと新しいことに挑戦できる環境と、真のプロフェッショナルになっていくために必要な基礎体力を養う時間が用意されています。個々の意見を尊重し、長い目で見て人を育てるTMIの精神は、離職率の低さとなって顕れています。TMIでは人は埋もれないし、埋もれさせません。人を育て、人とともに育ってきた TMI だからこそ確信をもって言える言葉です。一生をかけて情熱を持って取り組める、あなたにしかできない仕事を TMI で見つけてください。

人を活かし、人を伸ばす事務所づくりを約束します。

TMI 総合法律事務所  
弁護士（新人）採用委員会

## CONTENTS



04 - 05 INTERVIEW 山室 慶一郎

06 - 07 INTERVIEW 石原 慎一郎

08 - 09 INTERVIEW 渡辺 伸行

10 - 11 CROSS TALK

12 - 13 GENERAL FACTS

PROFILE 山室 慶一郎  
アソシエイト / 2018 年入所  
趣味は旅行とレストラン巡り。

長期の休みや、暇さえあれば、まだ見ぬ土地に行ってお店を巡り、その土地の人の雰囲気や、食べ物を楽しんでいる。

最近では、六本木で修業を積んだシェフがベトナムの田舎でオープンしたフレンチレストランを訪れたり、廃校になった建物を利用した金沢のレストランに行ったりするなど、変わった場所に非日常を求めて旅をしている。

自分の可能性の広がりを実感する 2 年目。

未来への選択肢は、自分の手の中にある



KEIICHIRO YAMAMURO  
山室 慶一郎

## KEYWORD

### TMG

TMG : Task Management Group の略。TMG は、所属するグループが扱う仕事を割り当てるための部門制とは異なり、専らノウハウの集約・共有や、労務状況の把握を容易にするためにある、専門性を同じくする弁護士グループ。SF (ファイナンス)・CF (コーポレート)・LR (訴訟・リスクマネジメント)・IP (知的財産) の 4 グループがある。所属する TMG の仕事だけをしている弁護士はむしろまれであり、多くの弁護士が TMG の枠にとらわれることなく業務を行っている。

## グルーピングされないから、 自分の可能性も狭められない

私が弁護士を目指そうと決めたのは、学生時代に受けた倒産法の授業で、弁護士の話聞いたことがきっかけでした。倒産という会社の重大事の中で、力を尽くして従業員の職と生活を守るといふ弁護士の仕事ぶりを聞き、ここまで直接的に人の役に立てる仕事があるのかと感銘を受けました。自分も法律という武器を携え、誰かの人生のために汗をかくて働きたいと思ったのです。そして、いざ司法試験の受験を終え、自分がどのような弁護士を目指したいかと考えたときに、まだ社会に出たこともなく、世界を知らない自分の可能性を、幅広い仕事をしながら試したいと強く思うようになりました。ただ、大手事務所というと、最初から所属するグループが決められ、その枠の中だけで仕事することが求められ、他のグループの仕事をするのではない、というイメージでしたので、最初は大手事務所に就職することは考えていませんでした。ところが TMI では、最初の 2 年間はローテーション期間というものがあり、その期間中は分野にとらわれることなく、自分がやりたい様々な仕事に挑戦することができること聞き、大変魅力を感じました。そして、実際に TMI を訪問した際にお会いしたパートナーがとても素敵な方で、22 歳という若輩者の私の話を真正面から真剣に受け止め、「様々な案件に携わり、様々なクライアントや弁護士に出会いながら、自分の適性を見定めていけばいい。TMI にはそのようにして自分の道を見つけてきた弁護士がたくさんいる」と親身なアドバイスをしてくれたのです。また、3、4 年目の若手弁護士の方々にもお会いしましたが、誰もが自分のキャリアを真剣に考え、自分の仕事を楽しそうに語っており、私もそのような弁護士になりたいと強く思いました。そんな魅力的な弁護士の方々が所属している事務所の一員に、ぜひ自分もなりたい、この事務所で挑戦したいと感じ、TMI への入所を決めました。

## 手を挙げれば、 すぐにチャンスの声がかかる

TMI には、「TMG」と呼ばれる 4 つのゆるやかなプラクティスグループがあり、弁護士は全員いずれかのグループに一応所属しています。ただ、ある TMG に所属したとしても、他の分野の案件に携わることは全く妨げられません。入所から 2 年のローテーション期間はさらにこの点が徹底されていて、いずれの TMG にも所属しないため、若手であっても誰に遠慮することもなく、「こんな案件をやりたい」、

「こんな先輩弁護士とやってみたい」と手を挙げれば、幅広い分野の案件に携わることができます。私はヘルスケア関連の案件を担当してみたいと、ある先輩弁護士に相談をしたところ、その 2 時間後には「ちょうどヘルスケアのこんな案件があるのでやってみないか」とアサインの声がかかったこともありましたが、ただ、入所時からヘルスケア案件に携わりたいと熱望していたというわけではありません。入所 1 年目は、何をやってもすべてが初めてだらけの中で、たまたま製薬会社の案件を担当させていただき、そこで、ヘルスケアという、人の生命や健康に深く関わる業界において弁護士として貢献できることの可能性に、やりがいや面白みを感じたため、この分野に興味を持ったのです。この案件をきっかけに、ヘルスケア関連のクライアントの新規ビジネスの立ち上げや、医療法人の M&A、製薬会社のガバナンス関係の案件など、様々な案件を担当させていただきました。今後は、バイオベンチャーの資金調達支援や、特許関連の業務にも挑戦してみたいと考えています。ローテーション制度を通じて、入所前には思ってもいなかった自分の新たな可能性に出会うことができ、日々充実して仕事に取り組んでいますので、TMI に入所して本当によかったと実感しています。

## きちんと叱ってくれる先輩がいる。 だから期待に応えたくなる

TMI では、入所したばかりであっても、クライアントとの窓口を担当したり、準備書面のファーストドラフトを担当したりと、責任ある仕事を任せられます。責任がある分、クライアントの期待に応えなければというプレッシャーは大きいですが、弁護士 1 年目であっても「プロ」という自覚を持って仕事に取り組むことができますし、クライアントファーストという弁護士の姿勢を早いうちから実感することができます。また、至らないことがあればきちんと叱ってくれるということが、TMI の素晴らしい文化だと思っています。どんなに忙しくても、時間や労力を割いて、若手のためにあえて耳の痛い話をしてくれるような先輩がたくさんいます。自分にはできると期待してくれているからこそ叱ってもらえるのだと思いますし、少しでも先輩弁護士に追いつきたい、期待に応えたい、という気持ちが湧き、それを糧にもっともっと頑張らなければ、と成長へのモチベーションが一段と高まります。私も、先輩弁護士から受け継いだ TMI の DNA を、後輩にも伝えていけるような弁護士を目指したいと思っています。

模索しつつも専門性を磨く8年目。  
TMIのカルチャーが  
成長を強く後押ししてくれる

石原 慎一郎

PROFILE\_石原 慎一郎

シニアアソシエイト / 2012年入所

「マイナースポーツなら今からでもオリンピックが目指せるのでは」と考えて、大学入学と同時にカーリングを始める。学生時代にユニバーシアード大会に日本代表として出場し、オリンピック強化指定選手になることができた。現在の趣味は筋トレ。出勤前にジムで汗を流すことを日課としている。

## 強みを活かしながら チャレンジさせてくれる環境

私は、幼少期を海外で過ごしたこともあり、弁護士を志した頃から漠然と、英語を使う案件に携わりたいと思っていました。新人研修や飲み会などで先輩方にそのような希望を伝えていたところ、入所1年目からクロスボーダーのM&Aやファイナンス、国際カルテルなどの案件に数多く関与できました。分野を問わず英語を使って仕事をする毎日に充実感を感じていましたし、若い年次のうちから、強みを活かし背伸びしてチャレンジさせてもらえた実感しています。もっとも、数年経ってボリュームのある英文の契約書をレビューすることができるようになって、海外との電話会議はいつも大変でした。TMIでは若手にも主導的な役割を積極的に与えようという雰囲気がありますが、主眼的な立場で参加した電話会議なのに、適切なタイミングで適切な発言をすることができず、先輩にフォローしてもらおうという苦い経験をしたことも少なくありません。そのため国際的な企業法務の世界で活躍するには、そのツールとしての英語力も、制度や文化の違いを超えて理解を得るためのコミュニケーション力も足りないことを日々痛感するようになりました。英語力を本当の意味で自分の武器にするためには、新たに自分の視野や経験値を広げるための選択として、米国に留学しなければならない、と思うようになったのです。

## 留学&海外での研修を力強くサポート。 それがTMIならではの魅力

留学では大きな気づきを得ることができました。ニューヨーク大学のロースクールでは、元々日本で取り組んでいた会社法やM&Aだけでなく、業務分野として興味があった国際仲裁の授業も積極的に受講しました。世界各国から来る学生との議論や雑談を通じ、日本法の感覚では当たり前だと思っていたことがコモンローの考え方ではまるで違うなど、これまで考えたこともなかった視点からの意見に驚く毎日でした。国際仲裁に関しては、座学で知識を学ぶだけでなく、模擬仲裁を通じて他国の学生とチームを組んで議論する中で、言語・価値観やベースとなる法体系の異なる相手と議論し、説得することの難しさを学びました。

2年目の研修先を見つけるのはとても大変でした。それでも、TMIでよく一緒に仕事をしていたパートナーが親身に相談に乗ってくれ、そのパートナーの海外研修先で同じ部屋だった弁護士が、ある米国のトップファームの日本チームの代表に就任した際に、私を受け入れてもらえないか掛け合ってくれ、無事そこに決まりました。人の縁やつながりを大事にするTMIならではの、本当にありがたいサポートでした。研修先では、日本であまり携わることのなかったキャピタルマーケットの案件を中心に関与しましたが、そのチームが日本人弁護士を戦力として求めていたため、充実した1年を送ることができました。

日本で共働することの多い米国のファームがどのようなスタイルで仕事を進めているのか、また日本の法律事務所は何を求めているのか、ということも米国側から見ることでできたことも貴重な経験です。TMI復帰後は、研修先の事務所から直接私に仕事を依頼していただけるようになり、一緒に仕事をする機会が増えました。国境を超えてこのような人間関係を築けたことはとても嬉しく、自信にもつながっています。

## 目指すべき弁護士像を、 常に心の中に描きながら

留学前は、外国法準拠の話だとしても海外の事務所と日本のクライアントとの橋渡し役に留まってしまうことが多かったのですが、留学および海外事務所での研修を経験したことで、それを越えて、相手の言っていることの背景を理解した上でもう一步踏み込んだアドバイスができるようになりつつあるのを感じています。また、留学中に、国際仲裁の知見を一層深め、新たにキャピタルマーケットの仕事に携わったことにより、私が目指すキャリアの幅が広がりました。いずれの分野も、これまでは必ずしもTMIのメインストリームではなかった分野ですが、私の留学中にこれらの分野を専門とするシニアパートナーの方々が新たにTMIに参画されました。留学後は、その先生方と仕事をする機会も増え、一緒に仕事をする中で、少しずつ業務分野を切り拓いていくことの楽しさのようなものも感じています。いずれの分野も、これからTMIにおいて成長する分野の一つであると確信しています。

自分の専門性については、これらの分野に加えて、これまでずっと携わってきたM&Aやコーポレートの業務も含めて、引き続き試行錯誤しながら考えていきたいと思っています。8年目を迎えた今でも、TMIではそのような試行錯誤の時間を与えてもらえていると感じます。今後も、目の前の仕事に全力で取り組みつつも、常にどんな弁護士になりたいか、どんなことに挑戦したいか、ということを考えながら仕事に取り組んでいきたいと思っています。

## KEYWORD

### 留学

TMIでは、アソシエイトの留学を強く推奨しており、TOEFLなどの英語能力技能試験において所定のスコアを取得すれば、米国・英国に限らず、様々な国での留学・研修の道が開かれている。留学準備として、英語案件によるOJTは勿論、入所直後のセブ島英語研修、TMIで開催される語学学校講師によるTOEFL対策講座など、充実したサポート体制が設けられている。学費・渡航費・生活費などの留学中の経済的援助が非常に充実していることも、TMIの留学制度の特徴である。

すべては一人ひとりの  
弁護士の成長のために。  
その文化と環境を活かしてほしい

渡  
辺  
伸  
行

PROFILE 渡辺 伸行

パートナー弁護士 / 1999 年入所

趣味は、クライアントに誘われて始めたトライアスロン。レース中はこんなに苦しいことはもうやめようと思うものの、終わるとまたすぐに次のレースに向けて準備を始める。完走という目標を定めて戦略的に準備を進めていく、その過程が一番の醍醐味。

NOBUYUKI WATANABE

## 最初の数年で得る幅広い経験が 弁護士としての基礎体力となる

入所してから3年目頃までは本当に色々な案件を経験させていただきました。ベンチャー投資、株式上場、株主総会、不動産ファイナンス、商標権侵害、スポーツ、中国進出、訴訟、証券会社などへの駐在など、この時期に幅広い経験ができたことで、その後、様々なクライアントの悩みに対応していくために必要な、弁護士としての基礎的な実力を培うことができたと思います。クライアントからの相談は「この法律のこの問題が」というように整理されてくるとは限りません。また、社会の変化に伴って求められるアドバイスもどんどん変わっていきます。そういった変化に臨機応変に対応するには、最初の数年間で、幅広い経験としっかりとした基礎を培っておくことが重要です。声がかかったら選り好みせず何でもやってみようという気持ちは、20年経った今も全く変わりはありません。面白いかどうかはやってみないと分からないですから。これまで分野を問わず幅広い経験をしたからこそ、様々なお声かけに対しても何でもやってみようというスタンスが今でも維持できているのだと自負しています。

## 年次や経験は関係ない。自ら手を挙げることで、 必ずチャンスは舞い降りてくる

M&Aを専門分野の一つにすることになったのは、入所数カ月後に、あるクロスボーダー M&A 案件のチームに入れていただいたことがきっかけです。右も左も分からないまま我武者羅に資料を読み込み、分からないことは片っ端から調べ、先輩の足を引っ張らないようしがみついていきました。その結果、相手方と対峙する状況の中で幅広い法律問題を一気に解決し案件を仕上げていく M&A のダイナミズムを肌で体感でき、この分野にどっぷり浸かってみたく思うようになりました。その後は、事務所に M&A の案件が来ればとにかく自分から手を挙げまくっていましたね。年次や経験に関係なく色々なチャンスを提供し、そのチャレンジを後押しする。TMIにはそういう文化があります。車が好きだと言えば、必ず自動車業界の仕事をアサインしてもらえます。しかし、自動車業界の仕事といっても海外進出、独禁法、知財、労務など多種多様で弁護士が関われる仕事は無数です。だからこそ、最初は様々な案件に関与することで、業界や分野の多様さを知り、その中から自分の得意とする分野、やりたい仕事を見出してほしいのです。

## 正解がない時代だからこそ、 弁護士には新しい価値が求められる

社会の多様化に伴い、弁護士も単に法律に長けているというだけでは通用しなくなってきていることを実感しています。「弁護士×○○」というように、弁護士という要素に掛け合わせる他の要素が求めら

れており、掛け算が増えれば増えるほど弁護士としての付加価値が上がってくると思います。留学が一つの例です。TMIは、すべてのアソシエイトに留学を推奨していますが、単に留学に行くだけでなく、その留学で他人と違う何を得てくるか、が重要です。私は、5年目に、米国のロースクールに留学しましたが、卒業後は、同窓の日本人弁護士の多くがローファームでの研修を選ぶ中で、米国の証券会社の投資銀行部門でインベストメントバンカーとして働く機会を得ました。そこで弁護士以外の、多様な資質・価値観を持つビジネスパーソンと接し、異業種の視点で自分の立ち位置を捉え直す機会を得たことで、弁護士としての視野・発想を広げることができました。留学に限らず、企業や官公庁への出向・駐在、国内外オフィスでの勤務・研修などもよいチャンスだと思います。留学先も英米のロースクールだけに限る必要はなく、北欧、中東、アフリカ、アジア、南米など英米以外の地域を志向してもよいですし、ロースクールではなくビジネススクールや Tax、Technology などの選択肢もあります。いかにして、弁護士という価値に掛け合わせる別の価値（視点・経験）を得るか、という発想が大事で、TMIはそういった意味のあるチャレンジに対しては積極的にサポートする文化がありますし、最近はその文化がますます深化・浸透しているように思います。

## 若手のために背中を押してあげること。 それが今の私のチャレンジ

自分を育ててくれた事務所に恩返しをしたいという想いが強くあります。自分が事務所や先輩にいただいたように、今度は私が若手にチャンスを与えて背中を押してあげる番だ、と思っています。ニューヨークへの留学中、突然、あるTMIのパートナーから電話が掛かってきて「ラグビーの仕事があるのだけど、フィジーに出張できるかな?」と言うのです。ラグビーの仕事があればいつかやってみたくて普段から何気なく話していたことをパートナーが覚えてくれており、ラグビー協会が新設するジュディシャル・オフィサーという役職（7年以上の法曹経験が資格要件）の研修がフィジーであるので受けてきたらどうか、という話でした。どんなに距離が遠くても、一人ひとりの弁護士の成長機会を真剣に考えてくれるTMIの文化を改めて感じ、心が震えた瞬間でした。現在は、アソシエイト弁護士のキャリアアップを考える立場にありますが、企業や官公庁への出向を志向している若手がいたらその希望を把握しておき、出向受入れのニーズとのマッチングをしています。日頃の仕事のアサインでも、若手一人ひとりの顔を思い浮かべながら「彼の成長のために」「彼女ならこの案件で飛躍できる」ということを常に考えています。若手の弁護士には、TMIにある「チャレンジする“自由”」を最大限に利用してもらいたいですね。自由な環境で自分の個性を思い切り発揮し、社会で思う存分に活躍してほしいと思います。

# CROSS TALK

## カルチャーを語る

### SESSION 01

#### 互いの持ち味を活かして チームは進んでいく

——TMIでの仕事の進め方を教えてください。

**水戸** クライアントからご相談を頂くと、どの弁護士に担当してもらおうかと考えて、チームを組みます。大規模な案件だと10人以上の弁護士が一緒になって取り組むこともあります。一番多いのは、パートナーがチームの責任者となり、シニアアソシエイト、アソシエイトという3人でチームを組むケースだと思います。

**小坂** 案件の規模によって仕事の進め方は異なりますが、チームで仕事を進めていくという点は共通です。チームでは、一番ジュニアのアソシエイトにも案件に主体的に関与してもらい、重要な役割を担ってもらいます。

**小勝** 書面の土台となるファーストドラフトやクライアントとの窓口など、新人の頃から様々な案件で重要な役割を任せられ、経験を積ましてもらいました。ただ、成果物を作成するためのリサーチなど、地道な作業もとても重要です。

**水戸** 最初の頃は地道なリサーチやドラフト作業も多く大変かと思いますが、仕事に取り組む姿勢を身につける上でも、どんな仕事にも真摯に取り組んでほしいですね。

**小勝** はい、一見地道な作業でも一つひとつ、丁寧に対応するよう心がけています。ファーストドラフトを担当するアソシエイトが一番その案件の事案や背景に詳しくあるべきという思いで取り組んでいるつもりです。

**小坂** 実際にこの3人でチームを組むこともあるわけですが、私の立場では、タイムマネジメントとクオリティコントロールを意識するようにしています。クライアントが求める時間軸で、TMIとして自信を持って提供できる成果物を提示するために必要なことをチームの皆と話し合いながら進めています。年次が進むと、これまでのクライアントとの関係や、ビジネス上の観点も踏まえながら、そのクライアントにとって何がベストなソリューションか、という視点から検討することも多くなります。

**水戸** 全くその通りですね。

**小勝** 案件の具体的な中身については、先輩弁護士と議論しながら、限られた時間の中で、クライアントに満足いただけるクオリティを目指して成果物を作成します。まだまだパートナーやシニアアソシエイトから指摘いただくことがたくさんあり、勉強の毎日です。

### SESSION 02

#### 「誰が言うか」ではなく 「何を言うか」を大切にす風土

**水戸** TMIには、数百人の弁護士を4つに分けたTMGという制度があるだけで、それ以外に派閥や部門のようなものはありません。そのため、個別案件のチーム組成も極めて柔軟に行われます。私も、案件によっては新人アソシエイト全員に「こんな案件があります」と募集メールを送り、その返事を見てアサインすることもありますよ。

**小坂** 積極的に「やりたい」と手を挙げた人が希望の案件にアサインされることが多いですね。

**小勝** 飲み会の席でパートナーに「こんな案件をやりたいです。一緒に仕事させてください!」と直訴することもよくあります。

**水戸** 留学が終わって帰国したその日に偶然すれ違ったパートナーから「久しぶり。ところでこの案件、一緒にやらない?」と声がかかった、なんてこともありますね。それほどオープンなカルチャーは、やはりTMIの魅力です。

**小坂** そうしたカルチャーは案件の進め方にも反映されていると思います。先輩弁護士と議論していたとき、単に「そう思います」と答えたところ、「それでは意味がない。否定してもいいから、自分の意見を言ってほしい」と諭されたことがあります。それ以来、私も後輩には、先輩にレビューしてもらった成果物を確認したときは「異存ありません」とだけ返すのではなく、自分がなぜそう考えたのかという思考のプロセスを示してほしい、と伝えるようにしています。

**小勝** 若手に自由な意見を求め、先輩弁護士がそれをしっかり受け止めてくれるというのは、私も実感しています。LS生時代にサマーアソシエイトで来たとき、担当してくれた先生方のフィードバックがとても丁寧でしたが、その時の印象は、入所しても全く変わっていません。

**小坂** 新人弁護士の見解も、自分なりに真剣に考えたことであれば必ずそこには意味があるはずだから、真摯に受け止めるようにしています。

**水戸** 我々弁護士は、たとえクライアントの社長が相手であっても、Noと言うべきときはNoと言わなくてはなりません。だから自分の頭で考えた見解を先輩に対してしっかりと話すという訓練はとても大切なことです。

**小坂** TMIは、立場や年次にかかわらず個々の弁護士が意見を持ち寄り、尊重し合いつつも徹底的に議論をするという文化が強いと思います。

### SESSION 03

#### 誰もが心地よい距離感を 大切にしたい

——組織の壁を越えた柔軟なチームづくりを支える、TMIならではの所風について教えてください。

**水戸** 人と人の距離が近く、風通しがいい。これに尽きるでしょうね。

**小坂** 記録に残すという意味でメールは大切な手段ですが、一方でフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを大切にすることがTMIのカルチャーです。小勝さんは私に用があるとき、わざわざ階段を2フロアも上がって、直接話をしに来てくれるじゃないですか。あれがTMIらしさだと思います。

**小勝** 息が切れちゃいますけどね(笑)。直接話した方がニュアンスも含めて自分の考えを伝えやすいと思っています。

**小坂** TMIでは、案件ごとに色々な弁護士と仕事をする機会がありますが、そういった場合でも、チームワークを発揮することができるのは、仕事だけでなく、週1回の全体会議や、様々な所内イベントで顔を合わせる機会が多いことも大きく貢献しているのではないのでしょうか。また、朝礼がある法律事務所も珍しいでしょう。所員が全員の前で自由なテーマでスピーチをするので、「あの人にはこんな面もあるんだ」という発見もあります。

**小勝** 飲み会も多いですね。この前は、同じフロアの弁護士・弁理士・スタッフ約50名で懇親会をしましたよ。

**小坂** いい意味で距離感が近いことを感じます。ただし、近い距離感を強制されるわけではないし、一人ひとりが自分にとって心地よい距離感を保てる、そんな文化があると思います。

**水戸** 事務所としての自由なカルチャーがあるから、個人としての自由なチャレンジが生まれ、それが“どこにもないユニークな法律事務所”を実現しています。道を拓いていく力が、そうした自由さから生まれているのは間違いありません。

【左】PROFILE\_小勝 有紀  
アソシエイト /2017年入所  
旅行が大好きで、近年はハワイ、ロサンゼルス、タヒチ、フィジーなど、海外に足を延ばしている。学生の頃からスポーツ観戦が趣味で、野球、バレーボール、ラグビーと、少しずつ興味の幅が広がっている。

【中央】PROFILE\_小坂 準記  
シニアアソシエイト /2009年入所  
趣味は、ランニングとサッカー観戦。ドイツ留学の際にビールとソーセージが増えてしまった体重を減らすためにランニングをしている。また、世界各地を旅行しながら色々な国でサッカー観戦をするのも楽しみの一つ。

【右】PROFILE\_水戸 重之  
パートナー /1990年TMIの設立に参画  
高校時代にジャーナリストになりたかったこともあり、ドラマに関するWEBコラムを連載するなど、執筆活動も行う。趣味はスポーツ観戦、映画・ドラマ鑑賞、読書。現在のテーマは、学んだことを次世代に受け継いでいくこと。



# GENERAL FACTS

2025年4月現在

設立年  
1999/10/01



TOKYO OFFICE

六本木ヒルズ森タワー

24階  
23階  
22階  
21階  
19階

六本木ヒルズ引っ越し年  
2003年  
(六本木ヒルズができた年)

六本木ヒルズの1フロアの床面積  
約1,360坪  
(国内最大級)

東京オフィスから  
徒歩15分以内の駅  
3駅

六本木 ROPPONGI  
麻布十番 AZABU-JUBAN  
乃木坂 NOGIZAKA

会議室の数  
67室

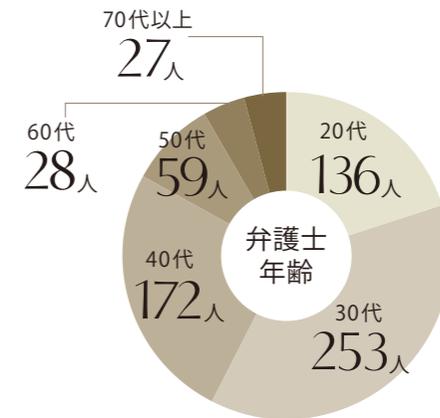
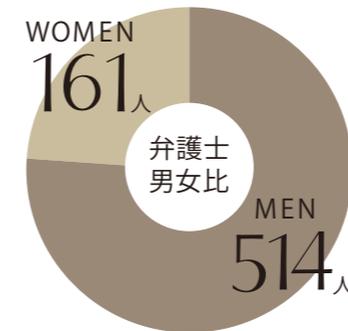


最大会議室の収容人数  
132人



人数構成	弁護士 614人	弁理士 99人	外国弁護士 61人	スタッフ 529人
------	----------	---------	-----------	-----------

LAWYER



平均年齢  
40.2歳

産休・育休取得人数

1回 23人  
2回 28人  
3回 2人

合計 53人

パートナー/カウンセラー/アソシエイト/顧問の人数構成

パートナー 206人  
カウンセラー 37人  
アソシエイト 507人  
顧問・客員 24人

過去3年間で  
パートナーになった  
弁護士数 36人

74期以降の  
新人弁護士で  
退所した人の数  
(離職率6.8%)

10/148人

一人ひとりが輝きを放つ TMI  
経験を紡ぎ、  
さらなるプロフェッショナルへ





TMI 総合法律事務所

お問合せ先

TMI 総合法律事務所 弁護士（新人）採用委員会  
東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 23 階  
recruiting@tmi.gr.jp  
<http://tmi-recruit.com/>